

資料編

指導・評価計画(全18時間)

関：関心・意欲・態度 考：数学的な考え方 表：表現・処理 知：知識・理解

時間	<p>○ねらい ★数学的な考え方 ・主な学習活動</p>	<p>・支援及び指導上の留意点</p>	<p>○評価項目(評価方法) ◎「十分満足できる」と判断される状況 ☆「努力を要する」児童への手立て</p>																										
1	<p>○実生活の中での「異なる二つの量」が関係している場合の「比べる方法」を学習することを教える。 ★色々な比べる場面を想起し、「異なる二つの量」の比較の仕方に気付く。(類推的な考え方・単位の考え)</p> <p>一番お得はどれ?理由も考えよう。</p> <p>・「比べた方法」を考えることにより、「二つの量」に着目し「二つの量とも異なる」場合の比べ方に気付く。(単位の考え)【学び合い活動】</p> <p>よく本を読んだのはどっち?理由も考えよう。</p> <p>・「異なる二つの量」に着目し、解決する視点に気付く。(類推的な考え方・単位の考え)【学び合い活動】</p>	<p>・問題のイメージが具体的にもてるように、実物を用意する。</p>  <p>・板書は児童の問題解決する思考の流れに沿って記入する。 ・理由が分からない児童のために、ペア学習を行う。</p> <p>ひろみさんの読んだページ数</p> <table border="1" data-bbox="639 674 1070 757"> <tr><th>日数</th><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td><th>合計</th></tr> <tr><th>ページ</th><td>5</td><td>7</td><td>3</td><td>4</td><td>6</td><td>25</td></tr> </table> <p>けんじさんの読んだページ数</p> <table border="1" data-bbox="639 763 1023 846"> <tr><th>日数</th><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><th>合計</th></tr> <tr><th>ページ</th><td>8</td><td>5</td><td>5</td><td>6</td><td>24</td></tr> </table> <p>・「1日」に視点を当てることで、「ならず」「平均」の考え方に気付くように学び合い活動を行う。</p>	日数	1	2	3	4	5	合計	ページ	5	7	3	4	6	25	日数	1	2	3	4	合計	ページ	8	5	5	6	24	<p>関：○日常の事象を異なる二つの量の関係に注目して「比べる」ことに関心をもち、学び合いをしようとしている。(学び合い活動の様子・発言) ◎日常の事象から異なる二つの量の関係に注目して「比べる」ことに関心をもち、自ら意欲的に取り組んでいる。 ☆「比べやすい時」と「比べにくい時」の違いに視点を向け、「比べやすい時」は、一方の量が一致していることに気付けるようにする。</p>
日数	1	2	3	4	5	合計																							
ページ	5	7	3	4	6	25																							
日数	1	2	3	4	合計																								
ページ	8	5	5	6	24																								
2	<p>○「ならず」「平均」という用語の意味を理解し、それをを用いて求め方を考えることができる。 ★異なる二つの量を比べる「平均」の方法は、理想化の考えに基づいていることを理解する。(類推的な考え・操作の考え・理想化の考え・表現の考え)</p> <p>比べ方を考えよう。</p> <p>・「1日の比べ方」を図と式のどちららを使って考えていくのか、問題解決の見通しをもつ。(類推的な考え方)【学び合い活動】</p> <p>・図やグラフ、式を用いて、「1日に読んだページ数」の求め方を考える。(操作の考え・理想化の考え)</p> <p>・問題解決の方法を発表し合い、それぞれの考え方を話し合うことにより、「ならず」「平均」の意味を理解する。(統合的な考え方)</p>	<p>どちらが、よく本を読みましたか。1日に読んだページ数で比べよう。</p> <p>・学び合い活動で問題の意味を把握し、どのように考えたらよいかを考え、図、グラフ、式のどれを用いて考えるのか見通しを立てる。 ・「ならず」と「1日に読むページ数を求める」が同じであることをペア学習で確認する。 ・見通しをもった児童から、自力解決していく。 ・児童が図やグラフ、式のどれを用いて考えているのが把握しやすいように、考え方別に色の異なる用紙を用いるようにする。 ・児童が赤、黄、青(算数)カードを示すことにより進行状況を把握しやすくする。 ・学び合い活動は「ならず」ことは「平らにする」と押さえて、考え方別に行う。 ・それぞれの考え方のよさ(便利さ)に注目させながら、「操作」と「式」の「ならず」を結び付けていく。</p>	<p>考：○分離量を「ならず」「平均」の視点から「比べる」方法を一つ考えている。(活動の様子・学び合い活動の様子・ノート) ◎分離量を「ならず」「平均」の考え方で比べることができ、理由も発表している。 ☆前時を想起して見通しをもたせたり、見通しをもたない児童を集め学び合い活動をしたりして、問題解決の糸口をつかめるように支援する。</p>																										
3	<p>1個のオレンジからできるジュースの量を求めよう。</p> <p>・「1個分を求める」解決の見通しをもつための学び合い活動を行う。(類推的な考え方)【学び合い活動】</p> <p>・図やグラフ、式を用いて、「1個分」を求める。(操作の考え・理想化の考え)</p> <p>・問題解決の仕方を発表し合い、それぞれの考え方を話し合うことにより、「ならず」「平均」の意味を理解する。(統合的な考え方)</p>	<p>6個のオレンジを1個ずつしぼってジュースを作ります。1個のオレンジから何mlのジュースができたことになるでしょう。</p>  <p>・前時の「1日分」が本時の「1個分」に当たることを学び合い活動を通して押さえていく。 ・見通しをもちにくい児童には、ブロック操作を行い、前時の学習を想起させ、操作と式(計算)を結び付けるようにする。 ・赤、黄カードの児童を集め、学び合い活動を行い、問題解決の方向性を確認する。 ・連続量の場合を扱うことにより、計算によって求める便利さを実感させ、平均の考えや必要性を理解できるようにする。</p>																											

<p>4</p>	<p>○生活の中で、平均の考え方をを使うことができる。</p> <p>★前時の平均の考え方を活用して、数値化して求めることに気付く。(類推的な考え方・理想化の考え方・単位の考え)</p> <p>どちらが重い卵を産んだか?</p> <p>・平均の考え方をういて問題解決し、発表し合う。</p> <p>一人平均何冊読んだことになるか?</p> <p>・0冊の扱いを理解し、平均を求める。</p> <p>・平均が小数になる場合を知る。</p>	<table border="1" data-bbox="635 161 1098 271"> <tr> <td>卵 A</td><td>56g</td><td>58g</td><td>56g</td><td>61g</td><td>54g</td><td>57g</td> </tr> <tr> <td>卵 B</td><td>57g</td><td>53g</td><td>60g</td><td>58g</td><td>56g</td><td>53g</td><td>55g</td> </tr> </table> <p>・学び合い活動を通して、平均の考え方をういればよいこと、実際にはならず操作はできないが、計算を使うと求めることができることを予想できるようにする。(理想化の考え)</p> <p>・平均の重さが産む卵の重さの目安になることを理解できるようにする。(類推的な考え方)</p> <table border="1" data-bbox="635 454 1125 560"> <tr> <td>名前</td><td>ただし</td><td>ゆたか</td><td>けんた</td><td>さやか</td><td>ゆうこ</td> </tr> <tr> <td>本の数(冊)</td><td>4</td><td>3</td><td>0</td><td>5</td><td>2</td> </tr> </table> <p>・0冊に注目させ、学び合い活動を行い、同様に扱うことを理解できるようにする。(4と5で割る違い)</p> <p>・学び合い活動で、平均が小数になることがあること、及びその数値の意味を理解できるようにする。</p>	卵 A	56g	58g	56g	61g	54g	57g	卵 B	57g	53g	60g	58g	56g	53g	55g	名前	ただし	ゆたか	けんた	さやか	ゆうこ	本の数(冊)	4	3	0	5	2	<p>関：○実際にはならずことができな場合や小数で表せない場合でも、平均を小数で表してもよいことを知り、そのことを活用しようとしている。(学び合い活動の様子・発言・ノート)</p> <p>◎ならずことができな場合・小数で表せない場合でも平均の考え方をういて比べている。</p> <p>☆ならず操作がやりづら場合の解決法を既習事項を基に考えることができるように支援する。</p>
卵 A	56g	58g	56g	61g	54g	57g																								
卵 B	57g	53g	60g	58g	56g	53g	55g																							
名前	ただし	ゆたか	けんた	さやか	ゆうこ																									
本の数(冊)	4	3	0	5	2																									
<p>5</p>	<p>○「こみ具合」は人数と面積の二つの量が関係していることが分かり、一方の量をそろえ、もう一方の量で比べる方法を考えることができる。</p> <p>★分離量において理想化し、単位量当たりの大きさを比較ができる。(単位の考え・操作の考え・図形化の考え・理想化の考え)</p> <p>簡単に比べられるのはどれか。</p> <p>・簡単に比較できない理由を話し合うことにより、どちらかの量をそろえて比べればよいことに気付く。(単位・図式化・理想化の考え)</p> <p>(あ)と(う)の比べ方を考えよう。</p> <p>・どの量をそろえればよいかという視点で見直しを持ち、比べ方を考える。(単位の考え・操作の考え)</p> <p>【学び合い活動】</p> <p>・様々な比べ方の発表を聞き、「一方の量をそろえ、比べていること」を確認する。</p>	<table border="1" data-bbox="635 757 1153 824"> <tr> <td>あ</td><td>12人</td> <td>い</td><td>12</td><td>人</td> <td>う</td><td>15</td><td>人</td> </tr> </table> <p>・学び合い活動で、一方の量が同じ物は比較しやすいこと、(あ)と(う)も「人数」「マットの数」のどちらかをそろえればよいことに気付かせ、問題解決の見直しをもてるようにする。</p> <p>・見直しを明記するように助言する。</p> <p>・黒板前での学び合い活動により不安や疑問を解決し、見直しをもてた児童から自力解決に向かえるようにする。</p> <p>・問題解決の見直しをもつ時、マットと人の図、絵などで表すと考えやすいことを助言する。</p> <p>・問題解決に行き詰まった赤・黄カードの児童は、「そろえる」物(考え方)別の小集団による学び合い活動を行い、問題解決の方法に気付くようにする。</p> <p>・それぞれの考えを発表し合う、学び合い活動を行う。対象が枚数か人数かで、数の大小と混み具合の判断が逆になることに気付くように支援していく。</p>	あ	12人	い	12	人	う	15	人	<p>考：○こみ具合を面積と人数の二つの量のどちらかをそろえて考えている。(活動の様子・学び合い活動の様子・発言・ノート)</p> <p>◎こみ具合を面積と人数の二つの量のどちらかをそろえて考えることに気付く、解き方を複数考えている。</p> <p>☆マットの数と人数に着目することを伝え、(あ)と(い)、(い)と(う)が比べやすい理由を表から気付けるように支援する。</p>																			
あ	12人	い	12	人	う	15	人																							
<p>6</p>	<p>○単位量当たりの大きさを比べる方法を理解する。</p> <p>★マット1枚当たりの人数で比べると、便利であることに気付く。(表現の考え・単位の考え)</p> <p>三つ一度に比べる方法を考えよう。</p> <p>・前時を振り返り、様々な比べ方の中で、比べやすい方法を見付ける。</p> <p>・面積をそろえて人数で比較すると比べやすいことを理解する。</p>	<p>・結果の確認の際は、何をそろえて、何で比較したのか明確にする。</p> <p>・学び合い活動では、数理的な処理に視点を当てた話し合いを意識させ、「1当たりの量」にそろえる「よさ」に気付くようにする。</p> <p>・「単位当たり量」にそろえる「よさ」を話し合った後で、人数をそろえる場合は、数の小さい方が混んでいることになるため、数のもつ意味を考えることで「単位面積」にそろえる「よさ」を実感できるようにする。</p>	<p>知：○単位量当たりの大きさを考えると比べやすくなることを理解している。(学び合い活動の様子・発言)</p> <p>◎面積をそろえた比べ方が、数字の大小が混み具合になり、比べやすいことを理解している。</p> <p>☆前時の学び合い活動の時に使用した考え方用紙を確認しながら支援する。</p>																											
<p>7</p>	<p>○人口密度の意味を知り、求めることができる。</p> <p>★単位量当たりの考えを活用して、人口密度の求め方に気付く。(類推的な考え方・発展的な考え方)</p> <p>笠懸町と桐生市のこみ具合を比べよう。</p> <p>・比べ方を考える。</p> <p>・「人口密度」の用語と意味を知る。</p>	<table border="1" data-bbox="635 1686 1018 1821"> <tr> <td></td><td>人口(人)</td><td>面積(k㎡)</td> </tr> <tr> <td>笠懸町</td><td>27737</td><td>18.61</td> </tr> <tr> <td>桐生市</td><td>128035</td><td>274.57</td> </tr> </table> <p>・前時までの学習「こみ具合」から、人口密度の考えに発展していることを確認する。</p> <p>・計算の際は電卓を使用し、「求め方」に比重をおき、計算に負担をかけない。</p>		人口(人)	面積(k㎡)	笠懸町	27737	18.61	桐生市	128035	274.57	<p>表：○人口密度を求めることができる。(学び合い活動の様子・発言・ノート)</p> <p>◎1km²当たりに住んでいる人数を求め、二つの市のこみ具合を比べることができる。</p> <p>☆前時の考え方と同じ「こみ具合を比べる」学習であることを確認し、支援する。</p>																		
	人口(人)	面積(k㎡)																												
笠懸町	27737	18.61																												
桐生市	128035	274.57																												
<p>8</p>	<p>○単位量当たりの大きさの言葉を知り、様々な場合の単位量当たりの大きさを求めることができる。</p> <p>★問題の数量関係を図や表に表し、</p>	<p>学校でもいほりをしました。6㎡の畑からは43.2kgのいもがとれ、9㎡の畑からは62.1kgのいもがとれました。どちらの畑がよくとれたといえるでしょうか。</p>	<p>表：○単位量当たりの大きさを用いて、問題を解決している。(活動の様子・学び合い活動の様子・発言・ノ</p>																											

	<p>単位量当たりの大きさを基に考えることができる。(図形化の考え方・類推的な考え方)</p> <p>とれ高を求めて、比べよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 見通し(1㎡当たりのとれ高で比べる)をもつ。(図形化の考え方・類推的な考え方) それぞれの「1㎡当たりのとれ高」を求めて、考える。(類推的な考え方・比例の考え方)【学び合い活動】 比べ方を発表し、話し合う。 <p>どっちのノートが高い?</p> <ul style="list-style-type: none"> 1冊当たりの代金を求め、比べてから練習問題を解く。 	<ul style="list-style-type: none"> 表(緑)、数直線(赤)、その他(黄)と用いる手立てによって、自分の考えを記入する用紙の色を変え、考え方の把握をしやすくする。 解決に行き詰まっている児童(赤・黄カード)は、自分の疑問や迷っている点を青カードの児童に質問する学び合い活動を取り入れ、問題解決のヒントを得るようにする。 学び合い活動でも解決できない児童には、教師が支援していく。 <p>10冊で1200円のノートと、8冊で1040円のノートでは、どちらのノートが高いでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 数量関係を図や表、数直線に表して考えるようにする。 	<p>ート)</p> <p>◎単位量当たりの大きさを用いて、問題を的確に解決している。</p> <p>☆図や表に表現して、何をそろえれば比べられるのか考えるように助言する。</p>												
9	<p>○単位量当たりの大きさを使い、全体の大きさを求めることができる。</p> <p>★単位量当たりの大きさを使って全体の大きさを求めることは、かけ算であることに気付く。(単位の考え・比例の考え)</p> <p>単位量当たりの大きさから、全体の量を求めよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 図や表に表して、問題を解決する。 求め方を発表し合い、話し合う。 言葉の式に表す。 <p>単位量当たりの大きさから、長さを求めよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 図や表に表して、問題を解決する。 求め方を発表し合い、話し合う。 言葉の式に表す。 	<p>1 m当たりの重さが20 gの針金があります。</p> <p>①この針金15mの重さは何gでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 針金1 m当たりの重さは単位量当たりの大きさであることを確認する。 自分なりに図や表で表したものを基に考えを整理し、見通しをもたせていく。 かけ算の意味とつなげる。 (全体) = (1つ分) × (いくつ分) <p>②340 gの針金の長さは何mでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分なりに図や表で表したものを基に考えを整理し、見通しをもたせていく。 (全体の重さ) ÷ (1 mの重さ) = (長さ) 	<p>表：○全体の大きさを求めることができる。(学び合い活動の様子・発言・ノート)</p> <p>◎「単位量当たりの大きさ」=「1つ分」でかけ算の考えとつなげて求めることができる。</p> <p>☆「単位量当たりの大きさ」の意味を確認し、「1つ分」であることからかけ算が使えることに気付かせていく。</p>												
10	<p>○単位量当たりの大きさを用いて、仕事の速さについて判断できることを理解する。</p> <p>★「単位量当たりの大きさ」は「仕事の速さ」も表すことができることに気付く。(単位の考え・関数の考え・類推的な考え方)</p> <ul style="list-style-type: none"> 数量関係をとらえ、解決の見通しをもつ。 見通しにそって、解決する。 解決方法を発表し、話し合う。 練習問題を通して、単位量当たりの大きさを考えるよさに気付く。 	<ul style="list-style-type: none"> 1時間の前半で「仕事の速さ」にしばった問題、後半でその習熟と「単位量当たりのよさ」に気付く問題を用意することで、児童の理解を助ける。 <p>8分間に240%の水をくみ出す機械と、12分間に300%の水をくみ出す機械があります。1分間当たりにくみ出す水の量は、どちらが多いでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 数量関係を分かりやすくするために、図や表、言葉の式に整理する。 <p>(あ)の印刷機は、4分間に300枚、(い)の印刷機は、5分間に380枚印刷ができます。</p> <p>①どちらの印刷機の方が、速く印刷できるか。</p> <p>②(あ)は、7分間に何枚印刷できるか。</p> <p>③(い)は、1140枚印刷に何分かかかるか。</p>	<p>知：○仕事の速さの考え方を理解している。(学び合い活動の様子・発言・ノート)</p> <p>◎「仕事の速さ」=「単位時間当たりの大きさ」を基に、比べることができることを理解している。</p> <p>☆前時の言葉の式を基に、「1分間当たりの量」を求め、比べればよいと助言する。</p>												
11	<p>○速さの比べ方を考える。</p> <p>★速さの違いも、二つの異なる量に関係していることに気付く。(類推的な考え方)</p> <ul style="list-style-type: none"> DVDを見て、速さを比べる方法を考える。 長さも時間も違う場合の速さの比べ方を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 感覚的につかんでいる速さというものに焦点を当て、DVDを使って視覚的に比べるという活動を通して、速さを決定する要素(時間と長さ)について明らかにする。 長さか時間のどちらかをそろえたと比べやすいことに気付くようにする。 速さと時間、道のりの関係を確認する。 速さを決定する要素がいずれも異なる場合の比べ方を考えていく中で、これまでの学習「そろえる」という考え方が利用できることに気付くようにする。 	<p>考：○こみ具合のときの比較の仕方と同じように、二つの異なる量に着目して考えようとする。(活動の様子・発言・ノート)</p> <p>◎速さの比べ方を時間と長さに着目して、複数教えている。</p> <p>☆時間、長さのどちらかを一定にすると速さを比べやすいことを確認し、「一方をそろえればよいこと」に気付くようにする。</p>												
12	<p>○速さを比べるときも、単位量当たりの考えを用いて求められることに気付く、そのよさを味わうことができる。</p> <p>★単位量当たりの考えを用いて、速さを求める言葉の式を導くことができる。(関数・単位・理想化・</p>	<p>表は、けんじさんとまさしさんが走ったきよりと時間を表しています。どちらが速く走ったでしょう。</p> <table border="1" data-bbox="877 1892 1117 2027"> <thead> <tr> <th colspan="3">走った距離と時間</th> </tr> <tr> <th></th> <th>きより (m)</th> <th>時間 (秒)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>けんじ</td> <td>80</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>まし</td> <td>100</td> <td>20</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 「A：時間をそろえる(1秒間当たりに進む 	走った距離と時間				きより (m)	時間 (秒)	けんじ	80	18	まし	100	20	<p>関：○速さを比較するとき、単位量当たりの考えで比べることができることに気付く、そのよさを味わおうとしている。(学び合い活動の様子・活動の様子・発言</p>
走った距離と時間															
	きより (m)	時間 (秒)													
けんじ	80	18													
まし	100	20													

	<p>式についての考え、帰納的な考え方)</p> <p>どちらが速いか比べ方を考えよう。</p> <p>・「〇〇をそろえて比べる」で解決の見通しを持ち考える。(単位・理想化の考え、帰納的な考え方)</p> <p>・問題解決の方法を発表し合い、比較検討することにより、数学的な考え方をを用いて解決するよさを味わう。(単位の考え・帰納的な考え方・式についての考え)【学び合い活動】</p>	<p>距離)」「B：距離をそろえる(①1m当たりにかかる時間、②800m当たりにかかる時間)の考え方別に支援をして、問題解決の方法の確認をする。</p> <p>・学び合い活動は、B②→①→Aの順で発表させることにより、児童の視点をよりよい数学的な考え方に向けていくようにする。</p> <p>・A、B①②の比べ方についての学び合い活動によって質問や意見を出し合う中で、単位量当たりの大きさを用いるよさを味わえるようにする。</p>	<p>・ノート)</p> <p>◎単位時間当たりの道のりと単位道のり当たりの時間の二通りで比べ、単位量当たりの考えのよさを味わっている。</p> <p>☆距離や時間が同じであれば比べられることを助言し、一方をそろえて考えるように支援する。</p>
13	<p>○速さには、時速、分速、秒速があることを理解する。</p> <p>★単位時間の選び方で様々な表し方があることに気付く。(単位の考え・関数的な考え)</p> <p>どっちが速いかな？</p> <p>・問題を把握し、表や数直線に表して、解決の見通しをもつ。</p> <p>・1時間当たりに進む道のりを求めて、比べる。</p> <p>・速さには、時速・分速・秒速があることを知る。</p>	<p>3時間で553km走るひかり号と、2時間で334km走るとき号では、どちらが速いでしょうか。</p> <p>・前時は時間が(秒)であり、本時は(時間)であるという違いを確認する。</p> <p>・前時までの学習同様、単位量当たりの考えを用いればよいことに気付くように支援する。</p>	<p>知：○時速は「1時間当たりに進む道のり」を求めればよいことを理解している。(学び合い活動の様子・発言・ノート)</p> <p>◎速さは単位時間当たりに進む道のりで表されることをその理由とともに理解している。</p> <p>☆時間の単位が前時と違うが、考え方は同じであることを助言する。</p>
14	<p>○時速、分速、秒速の関係をとらえる。</p> <p>★時速、分速、秒速の意味から関係に気付く。(関数の考え・単位の考え)</p> <p>時速を分速や秒速に直す方法を考えよう。</p> <p>・速さの種類を確認し、時速を分速や秒速に直す方法を考え、求める。</p> <p>・求めた方法を発表し、まとめる。</p>	<p>・速さの意味を確実に押さえるようにする。</p> <p>・時間・分・秒との関係と関連付けて考えるようにする。</p> <p>・60分間で進む道のりから、1分間当たりの道のりを求めることができることに気付くようにする。</p> <p>・整数で表した方が分かりやすいことを押さえ、単位の調整を行うようにする。</p> <p>・秒速への変換も、分速に直した考え方を生かして、解決していくようにする。</p>	<p>表：○時速、分速、秒速の相互の変換ができる。(活動の様子・発言・ノート)</p> <p>◎いずれも単位時間当たりに進む道のりであることを利用し、時間・分・秒の関係から変換することができる。</p> <p>☆時間・分・秒の関係は同じで60進法になっていることを確認し、単位時間当たりの量を基に考えるように助言する。</p>
15	<p>○道のりを求めるときも、単位量当たりの考えを生かして求められ、公式にするよさを味わうことができる。</p> <p>★速さの考えを生かして、道のりが求められることに気付く。(関数的な考え・単位の考え)</p> <p>道のりを求めよう。</p> <p>・表や数直線に表し、単位量当たりの大きさをもとに問題解決の見通しをもち、自力で道のりを求める。(図形化の考え・関数的な考え・単位の考え)</p> <p>・求め方を発表し合い、共通点を話し合い、公式にするよさを味わう。【学び合い活動】</p>	<p>時速80kmで走る自動車が、3時間で進む道のりは何kmでしょう。</p> <p>・自力解決した求め方の共通点を「1時間当たりに進む道のり」の「何倍になっているか」で考えていることに学び合い活動を通して気付くようにする。</p> <p>・共通した考え方を言葉の式にすることで、公式として一般化でき、問題解決のとき公式に当てはめるだけで簡単に求めることのできるよさに気付くようにする。</p> <p>・言葉の式で公式にするときは、個の考えをできるだけ生かし、積極的に検討できるように、グループで考えてから、全体で発表し合い確認する。</p>	<p>関：○道のりを求めるときも単位量当たりの考えを生かし、公式にするよさを味わっている。(学び合い活動の様子)</p> <p>◎単位量当たりの考えを生かし、道のりを求める公式にするよさに自ら気付き、そのよさを味わっている。</p> <p>☆表や数直線に表現し、「単位量当たり」を基に考えられるように支援する。</p>
16	<p>○速さと道のりが分かっているときの時間を求めることができる。</p> <p>★速さの考え方を生かして、時間が求められることに気付く。(関数的な考え・単位の考え)</p> <p>時間を求めよう。</p> <p>・前時との違いを確認し、見通しをもって、解決する。</p> <p>・解決方法を発表し、検討する。</p> <p>・学び合い活動によって、言葉の式に表す。【学び合い活動】</p>	<p>時速80kmで走る自動車が、480km進むのに、何時間かかるでしょう。</p> <p>・表や数直線を利用することで、関係の把握や見通しをもちやすくする。</p> <p>・公式は単に暗記するものではなく、一つの式から変形していくようにしていく。その時、式のもつ意味もきちんと考えるようにしていく。</p>	<p>表：○公式を用いて速さと道のりが分かっている場合の時間を求めることができる。(活動の様子・発言・ノート)</p> <p>◎単位量当たりの考えを生かし、時間を求める公式を用いて求めることができる。</p> <p>☆学び合いを通して、表や数直線を見て、前時の反対の関係になっていることを確認する。</p>
17	<p>○既習事項の理解を深める。</p> <p>・テストをする。</p> <p>・学習後の感想を書く。</p>	<p>・児童の習熟度や児童の思いを把握する。</p>	
18	<p>○既習事項の確認をする。</p> <p>・テストの復習をする。</p>	<p>・テストでつまづきの多かった内容をもう一度学習し直す。</p>	